

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LINO（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種連携によるチームアプローチが可能な支援。	・多職種連携（専門職や看護師の配置）により、幅広い発達段階や多様な障がいの特性に応じた支援を行うことができている。また、医療的ケア児や重症心身障害のある子どもの受け入れている。	・職員の質の向上のために、外部の研修への参加や自己研鑽しやすい環境を整えるなどしていく。
2	・保護者との活動や支援内容の共有。	・登園後に、保護者へLINEにて活動の様子と写真を送っており、活動の目当てや活動の様子が分かるように工夫している。また、必要に応じて電話での引継ぎを行っている。	・写真については、活用の様子が分かりやすいとのことで、保護者に喜ばれているため、今後も引き続き、個人情報漏洩に細心の注意を払いながら送らせていただく。
3	・他事業所（同法人）との交流活動。	・外部講師による活動や長期休み(学校休業日)期間中に、他事業所（同法人）の子どもたちと交流する機会を提供しており、集団参加のための手順やルールを理解して活動に参加することで相互理解や互いの存在を認め合いながら仲間づくりに繋がるスキルが獲得できるように支援をしている。	・交流活動にて、利用児が多い時は、活動グループを分けるなどして、環境の設定や支援の工夫して柔軟に対応しながら取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）への取り組みが認知されていない。	・園長と語ろう会を実施し、保護者同士の交流や子育てに対する困り感等の共有し、その中で子育てに対する助言やアドバイス、ペアレント・トレーニング等を行う機会を設けているが認知されていない。	・園長と語ろう会の開催の目的が分かるように案内を出し、多くの方に出席して頂くように工夫していく。
2	・定期的に面談や子育てに関する助言等ができていない。	・モニタリングや担当者会議等を通して、面談や子育てに関する助言等は行っているが、定期的には実施しておらず、保護者からの要望や事業所が必要と判断した場合に実施している。	・面談期間を設け、出欠確認をとりながら、計画的に実施していく。
3	・関係機関へ訪問したりや会議を開催したりする等、連携を図る機会が少ない。 ※児発管以外の職員が連携が図りづらい	・サービス提供時間中、児発管以外の職員が訪問したり、会議等に参加する場合に（①利用者がいなくても職員を配置しなければならないこと②代わりの職員を配置する必要があること③訪問できる職員に限られるなど）、縛りがあり、関係機関との連携が図りにくい。	・関係機関との連携は必要不可欠であるが、現状の制度では、児発管以外の職員が連携を図ることが難しい。そのため、情報共有するための手段として電話でのやりとりが主である。 ※現場の意見を自治体に挙げ、自治体の柔軟な対応に期待したい。